

生浜地域誌 第59号 21.10.31

発行 NPO法人ちば・生浜歴史調査
電話 080-5387-2592

行事再開します☆☆*

やっと平常の生活に戻りつつある
今日この頃です。本会といたしましては今年度予定していた行事を感染対策を施しながら再開してまいります。
ふるってご参加ください。

●古文書整理会：月2回、1階を使用して
活動現在継続中です。

●体験 折り紙12/4土 9:30~

●体験 布ぞうりづくり1/15土 9:30~

●歴史散歩2/5土 9:30~

千葉市埋蔵文化財調査センター見学
千葉市制100周年記念『千葉市内出土考古資料優品展』ギャラリートーク見学

●講演 歴史講座2/12土 9:30~

「石斧の話・生の古代」
埋蔵文化財調査センター・
小林嵩先生

「3. 主な名勝旧跡」

前号58号の続きとなります

◆高室金兵衛(たかむろきんべい)碑===生実町



(き) 金兵衛は草刈堰で世を救い
…郷土カルタより

徳川時代、秀忠に仕え代官として生浜地区を支配した。当時、北生実、浜野村、古市場村、村田村、高島村、菊間村、八幡村の7ヶ村が旱害(かんがい)がひどく、灌漑(かんがい)用水に困っていたので、元和8年

「草苧」で村田上流に堰(せき)を築き、7ヶ村に流通するようにした。その結果今までの旱害は解消したので、これを讃(たた)える碑が建てられた。南生実町のバス通りの側の溝はこの水路である。

補足…このようにしてできた灌漑用水用の水路は現在も浜野や村田には存続している溝として使用されている。暗渠(あんきょ)となっているので目にはつきにくいけれど、たどってみると面白いです。

◆北小弓城跡(きたおゆみじょうあと)16世紀===生実町

城跡は生実町の北西部にあり、字本城 字旧邸 字宮脇 字番後台 字町並を加えた一帯が城跡で、原胤貞・原胤清・原胤栄が居た。



◆小弓古城(おゆみこじょうあと)15世紀===南生実町

大百池(おおどいけ)西方台地は字古城 字森台 字松原 字東堀 字台からなっていて、字古城は城の中心で古城台または要害台とも言われているが現在は畑と墓地になっている。この城は千葉城の支城として代々千葉氏の一族、原氏が居城していた。

(え) 栄枯盛衰語る小弓城…郷土カルタより…

行事参加 申し込み方法

NPO 法人ちば・生浜歴史調査会 まで

・先着 20 名で 締切ます。
但し申し込みが 3 名未満の時は 中止とします。

・電話連絡
火、木、土曜日 (9:30~16:00)
043 -265-8816
携帯: 080 -5387-2592
伝言・ショートメール可。
oi2ha2ma@softbank.ne.jp
でも可。

コロナで住民の、にぎわいとつながりが、失われませんように!!!

◆条里制田跡(じょうりせいたあと)===浜野町

現在の光香ドライブイン(ベルクあたり)より西方の浜野駅、さらに第六天神社あたりまで、大化の改新当時の条里制田の遺構がある。この事からして大化の改新当時から浜野に集落があったことがうかがえる。

(注)…条里制とは

日本古代の耕地の区分法。おおむね郡ごとに耕地を六町(約634メートル)間隔で縦横に区切り、六町間隔の列を条とよび、六兆平方の一区画を里とよび、一里はさらに一町間隔で縦横に区切って合計三六の坪とし、何国何郡何条何里何坪と呼ぶことで地点の指示を明確にし、かつ耕地の形を整えた。(広辞苑より)

◆本行寺(ほんぎょうじ)===浜野町

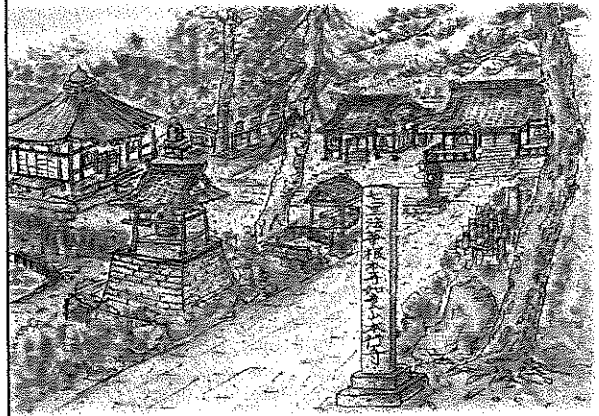
本行寺開基日泰上人(にったいしょうにん)は文明元年(1469年)品川より海上を渡り浜村の通称「谷(や)の地」の一庵寺を興し如意山本行寺と称し、ここで教えを弘めた。

天正10年(1590年)戦禍により焼失し、現在地に移し再興したが、大東亜戦争により再興した堂宇(どうう)など焼失。昭和27年泰師堂(たいしどう)再建、昭和56年本堂再建した。

補足…堂宇(どうう)は、四方に張り出した屋根(軒)をもつ建物。

補足…酒井定隆と日泰上人との出会い、および七里法華の由来は有名な話である。

補足…本行寺のスケッチは現在の泰師堂の新築前のものです。



如意山本行寺/画・白井芳郎

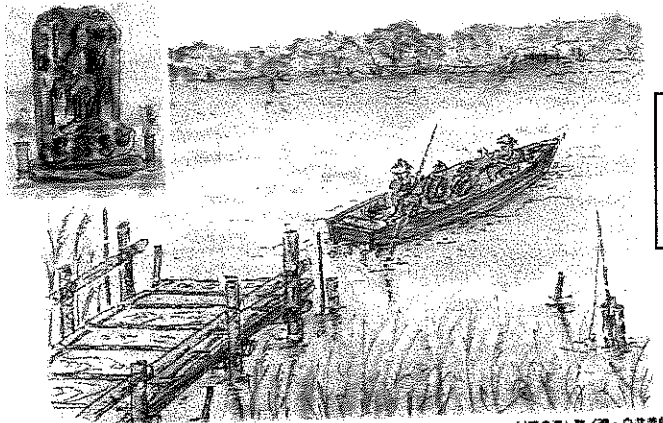
◆埋田(うめだ)===村田町

更級日記の作者、菅原孝標の娘たちの宿った両総境の「いかた」はこの場所であったに違いない。

補足…更級日記の作者がここを通過したかについては諸説ある。

◆村田川の渡場(わたしば)===村田町

明治以前まで続いた木更津街道の上総と下総の境、村田川に設けられた渡し場。



村田の渡し場/画・白井芳郎

*参考資料

「住んでいる生浜を知ろう」

生浜中学校PTA研修資料(昭和58年)

「絵はがき・生浜歴史散歩」

(NPO 法人ちば・生浜歴史調査会刊)

「郷土カルタ」

(NPO 法人ちば・生浜歴史調査会刊)

「宝暦5年(1755年)の古図」

…入会浦澤絵図…

古図の所蔵者(緑区茂呂町 鴫田博幸 家所蔵文書)による。

お知らせ

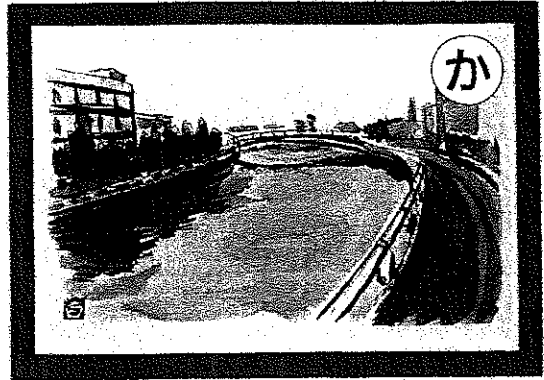
★浜野町・本行寺様から
テレビ・ビデオデッキ・DVDデッキの寄贈ありがとうございました。ありがとうございます。

★今年度賛助会員紹介

浜野町 岩村 衛様
刈田子 岡本博幸様

◆「塩田川」が「浜野川」に名称変更になったのは「二級河川になったから」

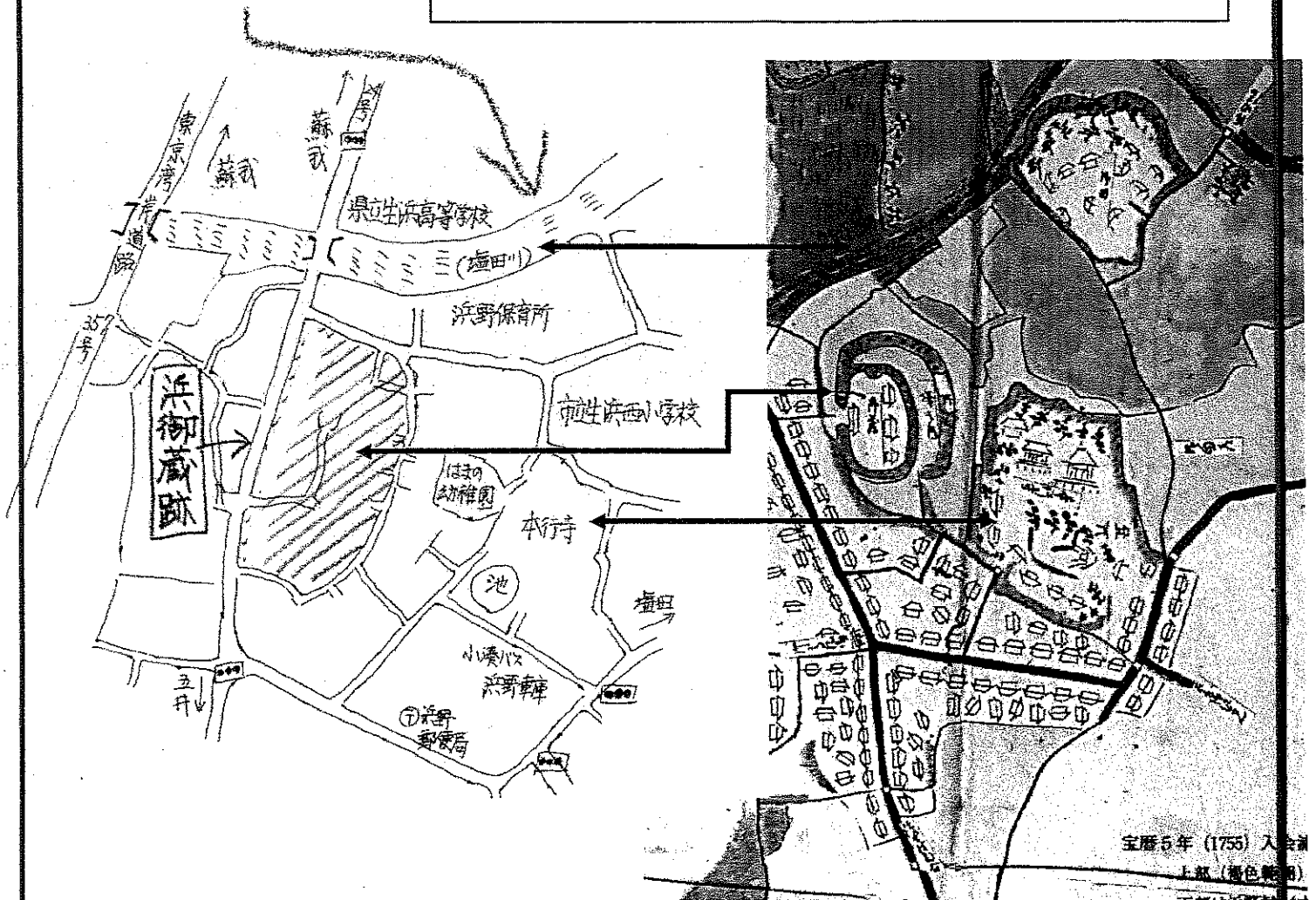
生浜高校のそばの川は、以前は「塩田川」でした。昭和45年に川幅を広げて幅20メートル長さ3320メートルの二級河川になりました。それは千葉市東南部の団地造成に伴う工事でした。名称変更の理由は、「二級河川の塩田川」はすでに夷隅郡に存在していました、同一県に同名の川が二つあることは許されないという規定からです。・・・「生浜を知ろう」27ページより転載



(か) 川幅を拡げたばかりに浜野川…郷土カルタより…)

【現在は「浜野川」と言っています】

◆森川氏穀倉庫跡(もりかわしこくそうこあと)＝浜野町 俗称「お蔵山」は昭和57年12月より58年1月にかけて発掘調査が行われ、人骨一体、土台石数個出土している。その後、畑地は現在のような住宅地となった。



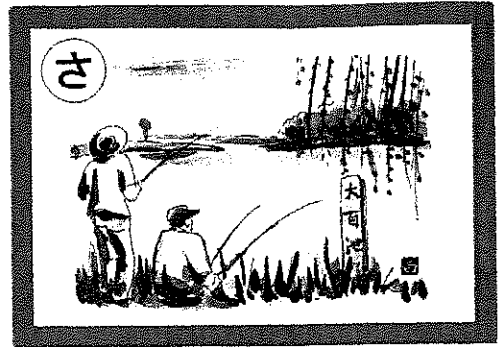
宝暦5年(1755)入会調
上紙(着色転写)

地域の過去現在未来を結ぶ活動を通し、豊かな毎日を過ごしましょう!!!

◆大百池(おおどいけ)===南生実

小弓古城の外濠(そとぼり)の役をなしていた。大百池は「オオドイケ」と呼ぶが、麻潤池「オホド」の意味で麻を浸した池と思われる。

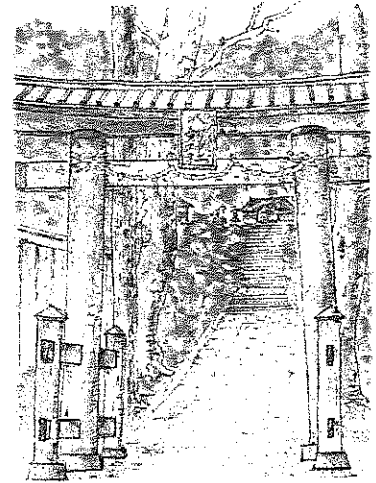
(㊟ 散歩道、釣と桜の大百池…郷土カルタより…)



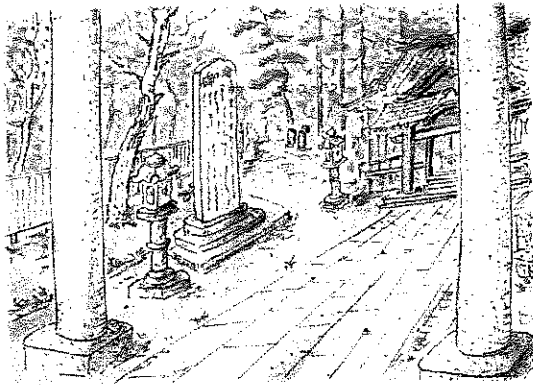
◆八劔神社(やつるぎじんじゃ)===南生実町

祭神は日本武尊(やまとたけるのみこと)天照大神(あまてらすおおみかみ)大国主命(おおくにぬしのみこと)の三柱で、創建は不詳となっている。吉野家蔵書によれば、日本武尊東征の時この地に立ち寄り、この辺に住む土民が互いに領域争いをしてのりを聞き、川を以って領域の境となさしめたと、その後は土民の争いもなくなり平和の里となったので後に、日本武尊をお祀りしたとされている。

またこの神社は武神として崇(あが)められ源頼光が上総介に任ずるとき本社に大弓を神前に捧げ武運長久を祈願し、多くの神田を収められたとい



南生実の八劔神社 / 画・白井秀郎



塩田の天満宮 / 画・白井秀郎

◆天満宮(てんまぐう)===塩田町

祭神は菅原道真、創建年代不詳。昔大津波の際、向塩田(むこうしょうだ)=現在の西小付近=に菅原道真の木像が打ち上がったので向塩田に祀り祭礼を行っていたが、現在は天満宮に合祀されてある。

◆宿居虫(ヤドカリ)繁殖地===村田・浜野町

旧村田川河口の浅瀬になっている海岸には「ヤドカリ」が良く繁殖していた。森川氏時代毎年12月にこのヤドカリを塩辛に加工して森川氏献納。森川氏は参勤交代の際これを手土産として献上した。

◆大清水(おおしみず)===有吉町

有吉谷中の大清水より湧き出る水は灌漑用水として古市場・村田・浜野・椎名・南生実の耕地をうるおしていた。元禄15年3月「古市場と椎名村・南生実村 水論」という水争いが起きている。また、この清水にまつわる伝説も伝わっている。